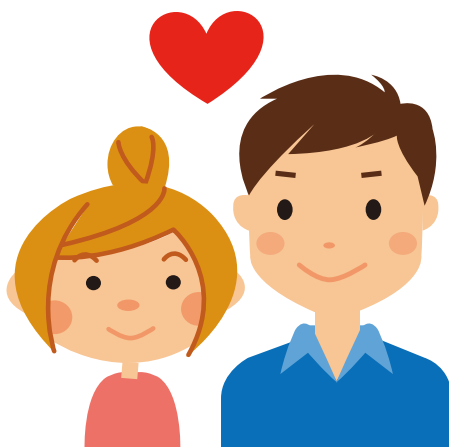


タイミング法

タイミング法とは病院で正確に予測された排卵のタイミングに合わせて、パートナーとの夫婦生活（セックスの機会）を持ち、自然妊娠を期待するという方法です。



不妊原因となる明らかな症状がある場合には、問題点を補ったり、取り除いたりするための投薬治療などもあわせて行うことになります。

不妊治療と聞けば、体外受精などの高度治療がクローズアップされがちですが、ご夫婦の負担を考えれば、タイミング法は重要な治療法です。心にも体にも負担が小さいだけでなく、金銭的にも最も負担が軽くなります。

この治療法は、単に夫婦生活のタイミングだけを指導すればよいというものではありません。

治療する側は、一連の経過の中で、卵胞はきちんと発育している、本当に排卵しているのか、排卵時に十分な頸管粘液が分泌されていて、その中に精子が侵入できているのか、また排卵前後の子宮内膜は十分に厚くなっているかといったことを、毎周期しっかり確認する必要があります。

不妊原因になるようなトラブルが発生していないか、常に確認することで、はじめて本来の効果が得られます。

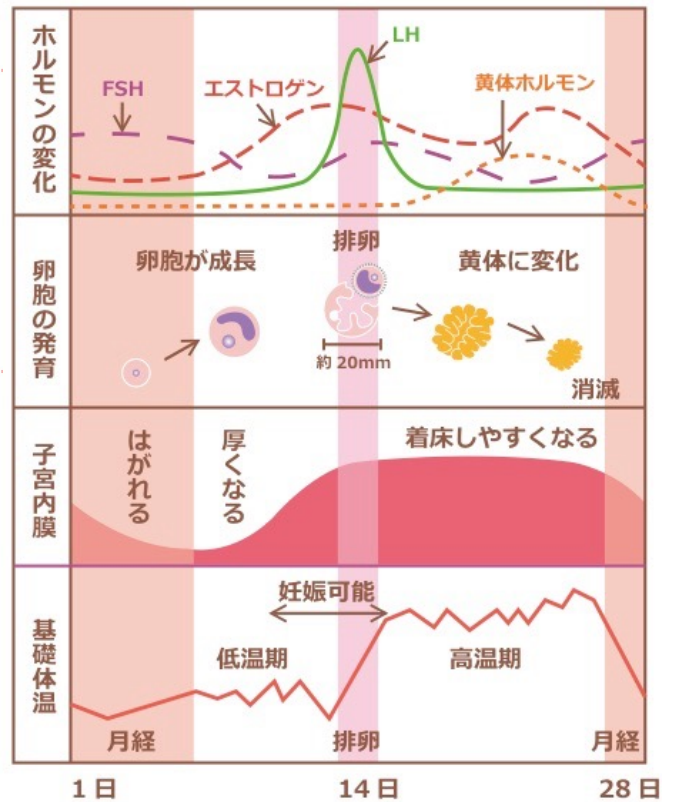
タイミング法の流れ

1. 排卵予測

過去の基礎体温表から、排卵が起こりそうな日を予測します。

2. 卵胞サイズをもとに予測日修正

排卵誘発剤を使わない自然周期の場合は、卵胞の直径が20ミリくらいになったところで排卵することが多いので、排卵予測日の3日程度前を目安に超音波検査で卵胞のサイズを測り、それをもとに予測を微調整します。



3. 排卵2日前に夫婦生活

検査の結果、約2日後あたりに排卵が起こりそうだとということになれば、その日に一度夫婦生活を持っておきます。

万が一予測日がずれた場合にそなえて、条件がよければ女性の体内で数日間生きている精子のほうを先に送り込み、卵管でスタンバイさせておこうという作戦です。

4. 排卵日に夫婦生活

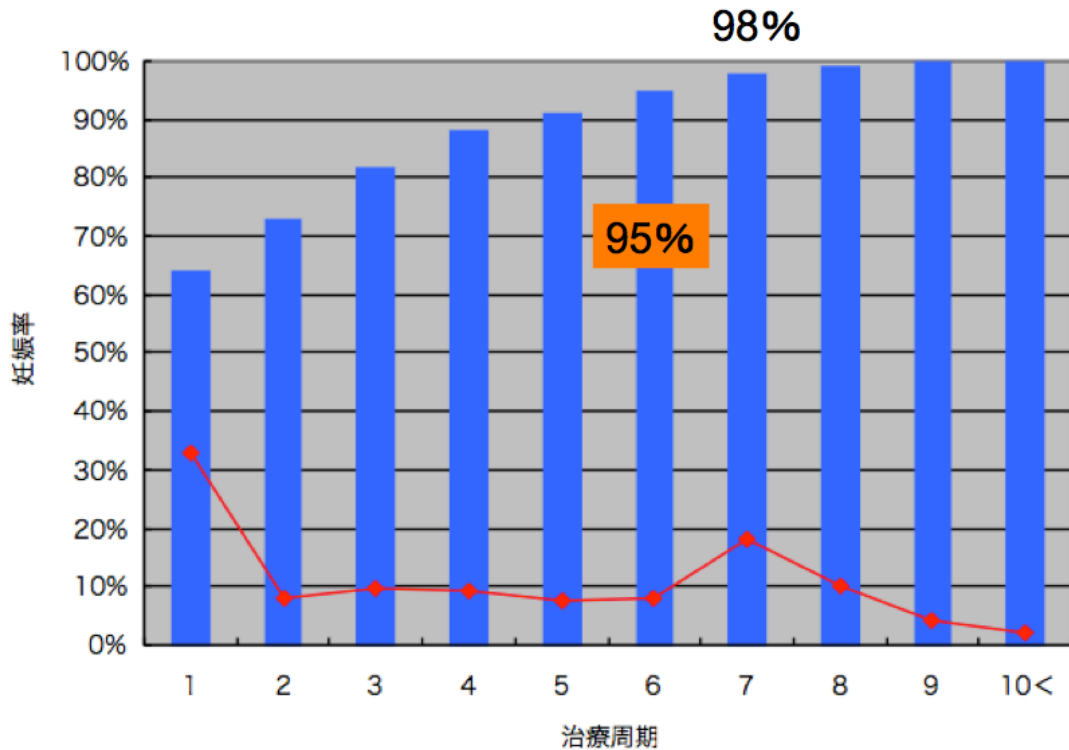
病院で予測された排卵日にも夫婦生活を持っておきます。

排卵日前2日目、排卵日、排卵日の後2日目に夫婦生活を持つことによって、妊娠する確率を高めます。

🌸 タイミング法は何回くらいするものなのでしょうか？

- ▶ タイミング療法と人工授精の有効治療周期数（8割以上の方が妊娠する周期数）は6~7周期です。
同じ治療を続けても妊娠しない場合には、一般の不妊検査では把握しきれない障害があるためと考えるべきです。
このような時には治療方針を変えた方が妊娠しやすくなります。

タイミング治療の妊娠率



🌸 やっぱり、すぐにステップアップしたいと考え直したのですが…？

- ▶ 患者様のご希望によって、人工授精、体外受精へのステップアップも可能です。

お気軽にスタッフへお問い合わせください。

